プレゼンテーション法（２単位）

担当者氏名　　澤山　茂・阿部尚樹・上原万里子・大石祐一・川野　因・鈴木和春・田中越郎・村　清司

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

ゼミでの課題発表、修士論文・博士論文発表、学会における発表などさまざまなプレゼンテーションの機会がある。論文のすべてを読んでもらえるのであれば、それなりに理解されるが、発表においては聞き手とのコミュニケーションの場が発生する。コミュニケーションの手段としてプレゼンテーション能力を十分に発揮できるためのスキルが要求される。このスキルは、学会での発表だけではなく、社会におけるプレゼンテーションを行うためにも必ず必要とされる。これらの状況をふまえて、各人の研究テーマに即した説得力のある最終発表演習に到達させることを目的とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

プレゼンテーション技法　情報検索　情報課題の設定　表現方法
口述発表　ポスター発表

◆授業の進行等について

	テーマ	内　容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションとは	代表的なプレゼンテーションソフトであるパワーポイントを使いこなすことができるようにするとともに、効果的なプレゼンテーションとはどのようなことか、コンテンツの作成ツール及び実際に作業や演習を繰り返し行って、実践ができることを目的とする。総括としてプレゼンの演習を行い、受講者全員で評価する。
2	プレゼン技法の現状	・プレゼンテーション技法の過去から現在	
3	プレゼンの構成	・構成の組み方：設計と制作の基本	
4	プレゼン能力	・プレゼンテーションに求められる能力	
5	プレゼン企画	・プレゼンテーションの企画と設計	
6	情報整理	・手持ちの情報の把握と整理	
7	プレゼン構造	・プレゼンテーションの構造	
8	コンテンツ	・コンテンツの制作、レイアウトの基本	
9	作表技術	・作表の基本	
10	グラフ作成技術	・グラフ作成の基本	
11	プレゼンの効果技術	・プレゼンテーションの効果技術	
12	表現方法	・プレゼンテーションの演出・話し方・表情	
13	価値を認識	・プレゼンテーションの価値の認識と評価	
14	評価されるプレゼン	・プレゼンテーションの実際例	
15	総括		

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

良いプレゼン悪いプレゼン—わかりやすいプレゼンテーションのために/後藤文彦/（株）カットシステム（2008)、さらに授業中に資料を配付する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

分かりやすい説明の技術/藤沢晃治/BLUE BACKS/講談社/（2005）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

課題として自分のデータを用いたプレゼンテーションを発表することを義務とする（100%)。

◆オフィスアワー

質問があれば随時メールにて受け付けます。

◆その他受講上の注意事項

なし